

はっとこどもえん えんだより 2021ねん

3期：7月1日～8月31日



社会福祉法人 種の会

絵：4歳児（レストラン）

幼保連携型 認定こども園 はっとこども園

〒657-0855

神戸市灘区摩耶海岸通2丁目3-14

TEL：078-805-3810

FAX：078-805-3820

携帯：080-3033-1952

Mail：hat@tanenkai.jp URL：<http://www.tanenkai.jp/>

種の会 法人本部Mail：tanenkai@jupiter.ocn.ne.jp



★ 7月8日がプール開きです。お手紙を見てご用意をお願いします。
(詳細は別途配布のお手紙をご確認ください)

★ 災害時・緊急時のお願い

台風や地震が発生した場合、園の電話回線が大変混み合います。園児の安否については、園から『チャイルドケアウエブ』でお知らせしますので、園への問い合わせはなるべく控えていただきますようお願いいたします。

また災害時や緊急時は、出来るだけ自宅待機、早めのお迎えのご協力をお願いいたします。

★6月25日より、種の会の理事長に片山雄基が就任いたしました。

前理事長の片山喜章は、会長（常務理事）として、法人全体の保育者研修と保育研究に従事することになりました。





アツい季節の到来

園長 かたやま 片山

ようやく緊急事態宣言が解除されました。活気に満ちた子ども達の声が園に響き渡っています。お陰様で大人達も、元気をたくさんもらっています。ワクチン接種も7月～8月にかけて多くの職員が接種できる見通しが立ってまいりました。感染しにくいこと、重症化しにくいこと、他人へうつす可能性も低くなることなどの効果があると思われまますので、普及していくことを願っています。

先月からインスタグラムを開始しました。普段見していない「はっとこども園」の一面を覗いてみませんか。時には職員へ感想をお聞かせいただければ幸いです。

今月からは、プールを開始する予定です。年々暑さが増している中、水で遊ぶ子ども達がイキイキとした姿を見せてくれると思います。子どもたちの健康と安全を第一に考えて、職員間でも活動内容や活動時間やグループの形態、実施場所やスケジュールを考慮し、少人数単位で実施する等、適切に変化させながら有意義な活動なるようにしたいと思います。熱中症対策も考慮してまいります。暑さ指数(WBGT)の測定については、こまめにその状況を捉えて活動を実施するかしないかを判断していきます。

特に幼児においては、子どもたちの間で、どうして熱中症や感染症の予防をすることが必要なのかということを中心に考え、その必要性が理解できるような伝達や対話していく機会をつくり、子ども自身が気付いて行動できるようにしてまいります。

また、7月～8月は例年、警報が発令されやすい時期です。先日消防庁から新たな避難情報が出ました。これまでの避難勧告(警戒レベル4)は避難指示!、避難準備・高齢者等避難開始(警戒レベル3)は高齢者等避難!という形式になりました。改めてですが今回の通達を踏まえ、灘区において警戒レベル3以上が発生した際には「命を守るということを優先」するため休園やお迎えの要請等の連絡を、より迅速に対応できるようにしたいと考えています。皆様のご協力をお願いします。

最後に、私事ではありますが、この度6月25日より当法人の理事長に就任致しました。前理事長の片山喜章は会長(常務理事)として、法人全体の保育者研修と保育研究に従事することになりました。種の会は、今年の8月で創立20周年を迎えます。はっとこども園が2002年4月に開園したことから出発し、今では、計18か所の施設を運営する法人となりました。450名を超える職員が在籍し、在園児(在籍学童児含めると)は、常時1500名を超えています。そして職員や児童のみならず、そのご家族や親戚、友人など多くの方々が日々私たちと接点を持っていること、さらにはこのデジタル時代、同業の方々、近隣施設、養成校の先生、保護者の職場等との距離感は縮まり近づき、関係の輪は大きく深く広がっているように感じます。

このような状態にあることを常に念頭に置き、関わるすべての方、特に子どもと職員が日々小さな幸せを感じられるような園(施設)・事業をみんなで創っていくことができるよう心がけます。こう考えていると私自身、この大役を任されたことに対し身の引き締まる思いで一杯であると共に、やりがいや伸びしろがたっぷりあるとも思います。



「ありがとう」は最強の言葉

主幹保育教諭 はしもと 橋本

7月になり、園庭に植えた様々な夏野菜も花を咲かせ、少しずつ実をつけるようになってきました。日差しも段々と強くなり、いよいよ夏到来です。子ども達は暑さに負けず、汗をかきながら元気いっぱい遊んでいます。30度を越える日もこれから続いていくと予想されます。熱中症に気をつけ、まだまだ新型コロナの感染予防にも十分に対策を取りながら、夏ならではの遊びの中で、子ども達の成長を願って保育に取り組んでいきたいと思ひます。

☆「ありがとう」は最強の言葉☆



段々暑くなってくると、寝苦しい夜が続き朝なかなか起きない・準備が遅い・朝ごはんが食べ終わらないなど、子どもに“イラッ！”としてしまい、つい声を荒げてしまって自己嫌悪に・・・そんなことはありませんか？他にも色々な場面でネガティブに捉えてしまうことって誰にでも一日の中でいくつもあります。そんな日常の中でそれを減らすステキな方法があるのです。それは「ありがとう」と声に出して言うことです。「ありがとう」は、相手に喜ばれるだけでなく、相手に自己重要感（自分を大切にしてもらえているという実感）を与え、結果的に自分も相手に受け入れてもらえる言葉なのです。

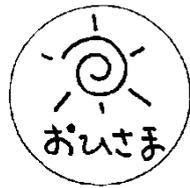
しかし、この言葉をいつもどんな時にも使うことができているのでしょうか。思っているもなかなか言えていない。また、つい相手の行為を当たり前に思ってしまう、感謝を軽視してしまっははいないでしょうか。家族に対してはなおさらです。一日の生活の中で「ありがとう」を声に出して言うてみてください。言うタイミングは思った以上にもたくさんあります。「靴をそろえてくれてありがとう」「朝ごはん食べてくれてありがとう」「ゴミを捨ててくれてありがとう」何気ない日常の行動に「ありがとう」ということを見つけ言葉にすることで、相手を高め、自分を受け入れてくれるのです。人と人との関わりが暖かいものになっていきます。

また、行動だけでなく相手の性格や存在に対しても付け足していうことでもっと効果は上がるのです。「〇〇してくれてありがとう。やさしいね」「頼りになるよ」など、行動＋性格・存在を褒めながら感謝を伝えることで自己重要感が高まります。自分の子どもに言うならば「生まれてきてくれてありがとう」など、少し照れるような言葉も伝えることで子ども達は自分の存在の価値を認識することができ、色々な力や学び、意欲に繋がっていきます。

朝の忙しい時間や夕食を作る時など、“イラッ！”とする時があれば、そのネガティブな気持ちからポジティブな気持ちに切り替えて（ポジティブチャンネルをカチッ）言葉を選んで接してみてください。きっと子ども達は「自分を大切に思ってくれる大好きなお父さんお母さんが喜んでくれる」「何でもできる自分ってすごい！」と、自分から進んで行動するようになってくることでしょう。

「ありがとう」はかけがえのない素敵な言葉だと思ひませんか？





〇さい 1さい
おひさまぐみ

のうそう おかの
能宗 岡野
やまもと まえだ
山本 前田



3期 (7月1日~8月31日) 夏を味わおう

【ねらい】 ・個々に合ったリズムで過ごせるようにする
・いろいろな感触を知る

【領域活動】 絵の具 (赤)・プール遊び・寒天

【わらべうた】 ♪かにどん かにどん ♪おすわりやす ♪どっちんかっちゃん
♪おふね ♪上がり目下がり目 ♪なこかいとぼかい

【うた】 ♪きらきら星 ♪七夕 ♪しゃぼんだま
♪うみ ♪アイスクリーム
♪おもちゃのチャチャチャ

【食育】 スイカ (7月) オレンジ (8月) ※出来そうな場合参加



お集まり

入園して3か月が経ち、一人ひとりの生活リズムもだんだんと定まってきました。おひさま組では毎日、朝のお集まりをしています。朝の歌・名前呼び・手遊び・わらべうた・季節の歌・絵本をしています。名前呼びでは、視覚的に見て分かるように顔写真カードを使って、一人ひとりの顔を見せながら名前を呼んでいます。手を挙げて返事をしたり、自分の顔写真を見てにこっと笑ったり、じーっと見つめたり、それぞれ違った姿が見られます。これからも1日を気持ちよく始めることができるように、朝のお集まりを大切にしていきたいと思えます。



水遊び

6月はミニ園庭に出て、タライに水を入れて遊びました。タライの中に手を入れ、水を手でパシャパシャと元気よく触ったり、スコップで水をすくってみたり、顔に水がかかり、困った表情を見せてくれたりと様々な子ども達の姿が見られました。

7月からはプール遊びが始まります。小さいタライや、ビニールプールに入って遊びます。手や指だけでなく、全身で水の感触や心地良さを感じることができればと思います。



7月おたより



1さい
おひさまぐみ

のうそ
能宗
やまもと
山本
おかの
岡野
まえだ
前田



3期(7月1日~8月31日) 夏を味わおう

【ねらい】 水遊びやプール遊びを通して水に親しみを持つ
遊びや生活の中で夏の暑さを感じる

【領域活動】 水遊び・プール遊び・感触遊び(寒天・氷)
どろんこ遊び・絵の具(赤)

【わらべうた】 ♪かにどん かにどん ♪おすわりやす
♪どっちゃん かっちゃん ♪おふね
♪上がり目下がり目 ♪なこかいとぼかい

【うた】 ♪きらきら星 ♪七夕 ♪しゃぼん玉 ♪うみ
♪アイスクリーム ♪おもちゃのチャチャチャ

【食育】 スイカ(7月) オレンジ(8月)



給食の時間

蒸し暑い日が続いていますが、子ども達は汗をかきながらも、夢中になって園庭遊びや散歩を楽しんでいます。たくさん遊んだ後は、給食を一生懸命に食べている子ども達。4月当初は、保育者と一緒にスプーンでご飯を口に運んでいた子が、自分からスプーンを持って食べようと動かしたり、食べられる食材が増えて食べることを楽しんだりしている様子があります。「いただきます」の挨拶より前に食べたい気持ちが先行して、食べようとしている子に「まだだよ」と同じ机に座っている子が声をかけていたり、エプロンが上手くつけられず困っている子を見つけると、後ろに回ってつけてあげようとしたり、子ども同士の関わりが増えてきました。

今後も給食の時間が楽しいものになるように「食べたい意欲」を大切に関わっていきたいと思います。

育てています

ミニ園庭で、ピーマン、マリーゴールドを育てています。プランターに穴を掘り、苗を植える作業を子ども達と行ないました。「大きくなあれ、大きくなあれ!」と願いを込め、じょうろを使って水やりをしています。毎日水やりをしていくうちに、水の入ったじょうろは両手で抱えると持ちやすい事や、花が咲き始めている事など、素敵な発見をしていました。収穫を楽しみに、一緒にお世話をしていきたいと思います。





2さい
なぎさぐみ

なかたに ふじむら きさい
中谷・藤村・笹井

3期（7月1日～8月31日）

- 【テーマ】 夏を満喫しよう
- 【領域活動】 七夕制作・水あそび・絵の具（すいかに触れて描いてみよう）
- 【うた】 ♪たなばた ♪うみ ♪みずあそび ♪しゃぼん玉
- 【わらべうた】 2階へあがらしてや・せんそうやまんそう
にゆうめんそうめん・おやゆびねむれ
- 【集団遊び】 簡単なルールのある2人組のゲーム遊び
（パフリング遊び・フープ遊びなど）
- 【食育】 夏野菜の収穫
すいかに触れて食べてみよう

水あそび



暑い季節がやってきました。園庭では水あそびの中で水の冷たさや気持ち良さを感じたり、どろんこあそびをしたりしています。ホースからシャワー状に出てくる水の中に飛び込み、「雨だ雨だ」と、降ってくる水を気持ちよさそうに浴びています。

また、色水を使って遊びました。赤・青・黄・白の色水をタライからすくったり、ジャンプのポンプから出してコップやペットボトルにジュースなどを作ったりしていました。「オレンジジュースつくった」「ピンクができた」と、色を意識したり、色が混ざる様子を楽しんだりしていました。来月も、プールや水あそびなど、夏ならではのあそびを満喫したいと思います。



粘土あそび



なぎさ組では油粘土だけではなく、小麦粉や米粉などを使った粘土あそびを楽しんでいます。一緒に粘土を作る所から始め、みんなと一緒にこねて一生懸命作りました。作る前のサラサラの粉の状態と、こねた後のモチモチの粘土になった感触を楽しんでいました。不思議そうに触る子や、粘土でご飯を作って遊ぶ子など遊び方は様々です。最後はみんなの粘土を集めて大きなおにぎりを作ったりもしました。

これからもいろいろな種類の粘土でたくさん遊んでいきたいと思います。





かじはら ひらくり
梶原・平栗

3期（7月1日～8月31日）

【テーマ】水であそぼう

【うた】♪きらきらぼし ♪たなばたさま ♪うみ

♪とんでったバナナ ♪しゃぼんだま ♪おばけなんてないさ

【絵画・造形】ボディペインティング・色水遊び・はさみ

【ふれあい遊び】人数集め

【楽器】カスタネットでリズム打ち

【運動】プール

【栽培】夏野菜（ピーマン・なすび・おくら）の水やり、収穫

【食育】夏野菜の食育（ピーマン・なすび・おくら）

【異年齢】フリーデー・グループ活動



先月の様子

～スタンプ遊び～

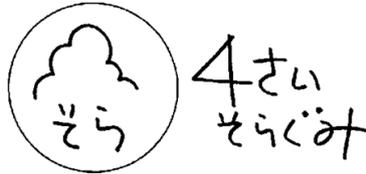
ペットボトル、キャップ、スポンジ、大きさの違うゼリーカップやプチプチ、新聞紙を丸めたもの・・・と身近にある様々な素材を使ってスタンプ遊びをしました。素材を好きな色の絵の具につけ、スタンプングしていくと「ちょうちょうみたい!」「まるとまるをスタンプしたら眼鏡に見えるよ」などと、ただスタンプをするだけでなく、その形を使っていろいろなものを表現することができていました。さらに、スタンプングしていく中で「赤からピンクになった!」と、色の変化にも気付く子もいました。



～クレパス遊び～

アリやダンゴムシなど、虫が大好きな子ども達。今回のクレパス遊びでは、「にじ組にダンゴムシが遊びに来てくれたよ」と子ども達に伝えるところからスタートし、ダンゴムシのイラストを手につけ、画用紙の上でクレパスをすべらせながら、ダンゴムシがお散歩した足どりを描いていきました。「ダンゴムシは今からおうちにかえるんだよ」「ダンゴムシの足跡がいろんな色になってる!」と色々な色を使って描く子や、好きな色一色だけを使って描く子など、思い思いに描くことを楽しんでいました。外で見ているダンゴムシの姿を想像しながら描いている子もあり、完成した後は「ダンゴムシさん、またご飯の時にきてね」と言っている子もいました。





いまみ
和泉

3期（7月1日～8月31日）

【テーマ】	七夕・夏
【絵画】	吹き流しで花火・ボディペインティング
【製作】	笹飾り
【折り紙】	すいか
【うた】	♪七夕さま ♪くじらのとけい ♪すいかの名産地 ♪アイスクリームのうた ♪南の島のハメハメハ大王 ♪しりとりうた
【農育】	夏野菜とさつまいもの水やり・草抜き・夏野菜の収穫
【クッキング】	夏野菜のクッキング
【夏の活動】	プール・お祭りごっこ

折り紙(あじさい)

折り紙で「あじさい」を折りました。1つ目はみんなで一緒に順番に折っていきました。折る行程の中で、分からなくて困っている友達がいると「こうするんだよ」と言って助け合う姿がありました。1つ目を折り終えて、「もう1つ折りたい」という子もいました。2つ目は自分で折ることに挑戦し、「1人で折れた」と喜んでいました。その後、近くに本物のあじさいを置き、茎や葉がどのように生えているのかよく観察して絵を描いていました。

にじみ絵(傘)

雨の日にコーヒーフィルターを傘に見立てて、水性ペンで好きな絵や模様を描き、降ってくる雨で滲ませてにじみ絵を行ないました。絵を描いている時は窓の外から聞こえる雨の音に興味を持ち、「ザーザー言ってるね」などと会話も広がっていました。そのコーヒーフィルターを持って実際に雨の中、外に出て雨に濡らすことを伝えるとワクワクした表情で外に飛び出す子ども達でした。コーヒーフィルターを傘のように頭の上に乗せながら、雨の中を歩いてみたり、木の下にみんなで入って木を揺らすと雫が落ちてくるのを「キャーキャー」言いながら騒いだりして楽しむ姿がありました。雨に濡れて色が滲んだり、混ざったりすることに驚き、「カラフルになった」や「こんな色になった」などと友達と見せ合いっこしていました。乾かしたコーヒーフィルターを画用紙に貼って、周りに絵を描きました。それぞれ素敵な傘ができ、そこから広がったストーリーを「これは水たまりなんだよ」「お母さんが傘持ってるの」などと嬉しそうに話してくれました。





5さい
かもめぐみ

さわね たかはし
澤根・高橋

3期（7月1日～8月31日）

- 【テーマ】 夏～友達と力を合わせて～
- 【絵画・造形】 お泊まり保育に向けてのTシャツ・旗作り、色水遊びを楽しもう
ボディペインティング
- 【うた】 ♪まあるいいのち ♪すいかの名産地 ♪あおいそらに絵を書こう
♪お泊り保育のうた ♪うみ
- 【ピアノカ・楽器】 かえるのうた・タンバリンで7拍子・3拍子のリズム打ち
- 【ふれあい・ゲーム遊び】 ふれあい遊び、2・3人組のゲーム遊び、リレー
- 【外部講習】 プログラミング
- 【食育】 カレークッキング、夏野菜・スイカの食育
- 【農育】 水やり・草抜き・追肥・収穫



オリジナルてるてるぼうず

「てるてるぼうずが作りたい！」という子ども達の声上がり、てるてるぼうず製作を行ないました。「てるてるぼうずってどうやって作るの？どんな材料でできるの？」と子ども達に問いかけると、案がたくさん出て、いろいろな素材でてるてるぼうずが作れることを知りました。どんなてるてるぼうずを作りたいのかをみんなで考え「てるてるぼうずを作る材料をお家から持ってきていいよ」と声を掛けると、当日たくさん持ってきてくれました。また、てるてるぼうずの作り方を調べて、紙に書いてきてくれる子もいました。

子ども達が持ってきてくれた材料や園にある材料を使い、てるてるぼうず製作が始まります。自分だけのオリジナルてるてるぼうずを作ることができると、家から持ってきたものを使えることで、子どもたちは始まる前からとてもわくわくしていました。てるてるぼうずを作っていると、「Aちゃんのてるてるぼうず、可愛い！どうやって作るの？」「この材料貸してほしいな」「Bくんみたいなたるてるぼうず作る！」と、友達のてるてるぼうずを見たり素材を見つけたりすることで、アイデアが膨らんだり作りたいものが明確になったりし、さらに作る意欲が高まっていました。そして、一人ひとりの素敵なオリジナルてるてるぼうずを作る事が出来ました。

作ることの楽しさ、遊びのおもしろさを子ども同士が共有し、友達とのつながりが広がっていると感じました。「Aちゃんみたいに作りたいな」「あの材料使うと面白そうだな」など、子ども達が互いに刺激を受けながら、遊びがより豊かに楽しくなっていくよう、子ども同士の思いやアイデアをつないでいく援助を心掛けていきます。



つりのせいせい

ふくやま
福山

お片付け

園庭では音楽が流れると、お片付けの時間になったよという合図です。それぞれ使っていた玩具を片付けたり、お友達に声を掛け合ったりしています。

しかし、最近お片付けにとても時間がかかるようになっていました。音楽がなっても遊び続けたり、声を掛けられても知らんぷりをしたりし、いつも同じ子達が一生懸命片付けている様子が見られました。そこで、お片付けをしている様子を動画に撮って、子ども達に観てもらおうことにしました。すると「〇〇くんいっぱい片付けてる」「まだ遊んでいる子もいる」「〇〇ちゃん、また片付けてくれてる」と、子ども達からの気付きがたくさん出ました。動画を観てからお片付けの力がぐっと入り、片付けることへの意識が高まりました。すると、お片付けの時間も短くなり、みんなですると早く終わるということを感じたようです。そして、「自分が使ったものは自分で片付ける」「違う遊びをする時は、一旦片付ける」ということを、みんなで再確認しました。

また、乳児クラスでは、こまめに保育者が玩具を片付けながら遊んでいます。それは、きれいな状態を心地よく感じてほしいということと、転倒や怪我の原因にならないためにも気を付けて行なっています。また、活動の区切りでは「大事なおもちゃだから、一緒にお片付けしようね」と、片付けを促しています。「これはどこに片付けるのかな」「おもちゃいくつ見つけれられるかな」と、子ども達の発達や個性にあわせて声掛けをして、ただ片付けるのではなく、楽しんでお片付けができるように工夫しています。

子ども達は、今まで夢中で遊んでいたものを時間だから片付けるということの切り替えが難しいこともあります。大人は次の予定を強調してしまいがちですが、子どもは「遊んだこと（過去）」をきちんと受け止めてもらえないと次の活動に移りにくいので、遊んだことの面白さや楽しさを大人が受け止めたり、みんなで共有したりすることで、次の活動の切り替えになります。ご家庭でもお片付けがなかなかできないこともあるかもしれませんが、「片付けさせる」から「一緒に楽しみながら片付ける」と、意識を少し変えて頂くだけで、大人も子どもも少し楽にそして楽しくお片付けができるようになるのではないかと思います。



台所の先生から

こんどう いわぶち
近藤 岩淵

7月は梅雨が明ける時期であり、日差しも強く気温も高いので、夏バテが心配です。暑さに負けないようしっかり夏バテ対策をしておきましょう！

・3食しっかり食べる

1日のスタートのもとになる朝食は特にしっかり摂りましょう。柑橘類に多く含まれるクエン酸は食欲増進効果があります。朝、食欲のない時は、グレープフルーツやキウイなどでもいいでしょう。どうしても食事がのどを通らないときは、手作りの野菜や果物のジュースを1杯飲むだけでも十分です。

・こまめに水分補給

暑い夏には体温調節のためにたくさんの汗をかきます。なるべくこまめに水分を補給するようにしましょう。また、ジュースには大量の砂糖が使われており、水分は補給できても食欲がなくなったり、ビタミン不足になったりすることがあります。なるべく水かお茶を飲むようにしましょう。

<レシピ紹介>

疲労回復！赤しそジュース

*材料 (1L分)

赤しその葉 150g・水 1L・三温糖 500g・クエン酸(レモン汁でも可) 15g

*作り方

水を沸騰させ、しそを入れ30分煮詰めます。煮詰まったらしそを引き上げ、三温糖を入れ30分～60分煮詰めます。冷めてからクエン酸(レモン汁)を入れて完成です。飲むときは、水や炭酸水などで3～4倍に薄めて飲んでください。冷蔵庫に入れておくと約2週間保存が可能です。

<はっとこども園では陶器の食器を使っています>

陶器の食器は重みがあり、温かみを感じることができます。子ども達が食器を割ってしまうこともあります。割れて壊れてしまうという体験を通じて、物の大切さを学んでほしいという思いがあります。また、乳児クラスは自分ですくって食べられるように陶器の介助用食器を使っています。スプーンやフォークを自分で持ち、自分で食べるという体験ができます。陶器の食器を用いて温かい給食提供を心掛けています。



ほけんだより



看護師 榎木 ならき

いよいよ夏真っ盛り、海に山に子ども達の賑やかな声が響いてくる季節を迎えました。この時期は特に熱中症に注意が必要です。気温が高いだけでなく、長期にわたるマスクの着用で熱中症の危険性もますます高まっています。夢中で遊ぶ子ども達は、水分補給も大人が声掛けしないと積極的にとれない状況です。重篤な状況になる前に早めに対処して行きましよう。

<こんな症状があると熱中症かも>

I 度（軽症）	II 度（中等度）	III 度（重症） すぐに救急車呼び
<ul style="list-style-type: none"> 汗が止まらない 筋肉痛がある 立ちくらみがする めまいがする 	<ul style="list-style-type: none"> 吐き気がする 頭が痛い 体がだるい 	<ul style="list-style-type: none"> 体温が高い けいれんしている まっすぐ歩けない 意識がない

こんな人を発見したら

いかに早く体温を下げられるかが「かぎ」です

- ・風通しのよい日かげやクーラーのきいた部屋に運ぶ
- ・水をかけたり、ぬれタオルをあてたりし、うちわであおぐ
- ・太い血管のある部分を氷で冷やす
(首、わき、足のつけね)
- ・意識がはっきりしていれば、塩分が入った水か、スポーツドリンク（ナトリウムを100mlあたり40g～80mg含んでいる）を飲ませる
- ・意識がないときや返事がおかしい時は、すぐに救急車（119）を呼び



<予防のポイント>

- ・日頃から暑さに慣れておく
- ・十分な睡眠（午後の昼寝は効果的）
- ・食事はしっかりとる。
- ・服は汗を吸いやすく通気性の良い物を選ぶ
- ・帽子を被る（つばのある物）
- ・こまめに水分補給する。
- ・気温の高い日には15分～20分毎に休憩をとる
(水は5～15℃くらいのも)
- ・胃腸炎や風邪にかかっている時は熱中症にかかりやすいので注意する

ウェルネス 体育遊び

緊急事態宣言発令に伴い、6月より再開いたしました。久しぶりの活動でも、みんなが元気いっぱい取り組むことが出来ました。

活動中は、みんな汗をたくさんかきながらも、サーキット運動で最後まで色々な動きにチャレンジしています。

【取り組みとねらい】

サーキット運動

○3 歳児クラス

U型サーキット

- ・サーキット運動に興味・関心を持ちながら、ルールを理解し基本動作を身につけていく。
- ・体を動かす楽しさを感じながら、十分な運動量をとる。

○4 歳児クラス

U型サーキット

- ・「走る」「跳ぶ」など基本動作に負荷を加え、ひとつひとつの動作を確かなものにする。
- ・複合動作①をたくさん経験（～しながら～する。という2つの動作を同時に行なう）していく。

○5 歳児クラス

U型サーキット

- ・動きの確かさ（素早さ、リズム、バランス、連続性など）を図る。
- ・新たな動きのなかから創造性や愉悦性をなどの魅力を感じる。
- ・複合動作②の経験（～から～して～する。という3つの動作を同時に行なう）

ポイント指導

・3 歳児クラス

- ・マット「横転」⇒おいもの形で横に転がる回る感覚を身につけます。
「でんぐりがえり」⇒前に転がる感覚を養います。
- ・鉄棒「ぶらさがり足タッチ」⇒ぶらさがりながら、手とお腹に力をいれ鉄棒に足をタッチしてから、ぶらさがりまで手を離さず行なう。

・4 歳児クラス

- ・マット「前回り」⇒身体を丸め、まっすぐ回って起き上がる。
（ポーズ～ポーズまでを意識して行う）
- ・跳び箱「助走～開脚乗りおよび開脚とび」⇒両足を揃えたところからすぐに蹴り返して跳び。（足が同時に踏み込めるように）
- ・鉄棒「つばめ～前回り降り」⇒腕支持の姿勢から身体を丸くしながら前にまわる。跳びつきから腕支持までを行い、手首を回して回ります。

・5 歳児クラス

- ・マット「坂付き後転」「後転」⇒後ろに転がる感覚を身につけながら、支持を行う。
- ・跳び箱「開脚とび」⇒両足踏切きを強くし、おしりを高く上げて跳びこす。
- ・鉄棒「坂付き逆上がり」⇒腕をひきつけて、けり上げを行う。お腹を見て背中を丸める。（最後は腕支持まで）
「逆上がり」⇒けり足と、脇の引き締めを意識して行う。

#ユナタン①

2021年7月 片山喜章

6月25日まで理事長でした。私個人の適性は、保育(園)や子ども(集団)について探求することにあります。学識系ではなく実践系です(還暦をすぎても尚、一部の園の子どもからの人気は強いです)。子どもは、良い事、悪い事をします。悪い事をしたときは、しっかり叱るのが正しい大人の態度です、ね。「しっかり叱らないから、子どもに規範意識が育たない」とふつうに考える人は多くいます。果たしてそんな単純な捉え方で良いのでしょうか。

「世界の今」も「これまでの人間社会」も、本質的に倫理や道徳や善悪ではなくて支配欲や利害関係や因襲など複雑な歴史で彩られており、不条理は山ほどあったと思います。一方、子どもの言動を○×問題のように「善か悪か」で判断し、形的に善に導くことが教育と考え「できる、できない」で人間性までも評価する価値基準に、私たちは今も尚、支配されています。

どうして乳幼児期や学童期の子どもには模範となるような言動を求めてしまうのか、それが安心、安全だと邪推してしまっていないのか、まずはそんな大人の認識の点検が必要です。

法人の3つの小規模保育園(1園の定員は1、2歳児で12名)では毎月、合同で事例検討会をしています。先日(6月24日開催)、1つの園において排泄前、自分でズボンをおろさない2歳児のXのエピソードがありました。A先生は「自分でやってみようね」と気長に誘い掛けますが頑なに無視します。「じゃあ、途中まで先生がおろすから、その後は自分でおろしてね」と妥協案を投げかけるとXはおもむろに片方のズボンをおろしかけました。“しめた”と思ったA先生は「すごい」と言いながら自分の手を放すと、Xも手を放してしまいました。

ズボンはXの片足の膝のあたりで止まったまま。(ナンデナン!?)とA先生のつぶやき。

そこでA先生、「じゃ～、こっちの足は全部先生が脱がせてあげるから、そっちの足は自分でしてね!」と妥協案 part2。Xは片方の足をA先生にすんなり脱がせてもらいました。けれどもそこでフリーズ…。Xに、もう片方を「自分でおろそうか」と笑顔で誘ってみても、無視、無言、無表情。(ナ、ナンデナン part2)。で、結局、XはA先生にズボンを両足ともすべておろしてもらって、いざ、トイレにゴー。この間のやりとりは、一体、なんだったんでしょう。

わずか数分の物語のなかに、「生活習慣の自立」「保育者の願いと迷い」「その暮らしの理解と対応」という要素が含まれていることを検討会で確認しました。(裏面へ)

1、2歳児だけで12名の施設。そこに常時3~4名の保育者がいる。しかも保育室は決して広くなく、当該園では、すべての保育者がすべての子どもを観察できるというある意味、好条件、ある意味、やや窮屈な環境(大人の感覚で子どもは全く感じていない)。

この日の検討会では、2歳児Xの個性(月齢と人となり)について、そしてA先生のこの場面での心の動きについて、他の2園の先生たちとともに考察しました。「生活習慣の自立」は、乳児保育において保育課題の1つであり保育者の願いです。なかでも「着脱衣」は、焦らなくても良いと一般に言われますが、集団保育の現場においては「できれば早く獲得してほしい」と願うのは、古今東西、保育者のしぜんな気持ちです。保護者も家庭ではなかなかうまくできないので「園でお願いします」と園に期待している部分が多いのも事実です。

しかし、A先生のエピソードを読み解くと、XはB先生の前では、たいていの場合、自分で脱いだり、はいたり、自立しているとのこと。先生によって自分の振る舞い方を使い分けているのです。まさに謎のミスターX。A先生は甘いのか、B先生は怖いのか。Xは、頭のよい子？ 使い分けするのは良くない子？ みなさんはどう感じますか(実際問題、Xのような大人は山ほどいます)。著名な専門書には「子どもがしてほしい」と言ったら小言を言わずに「とことんしてあげることが大事」とあります(同感です)。「柔らかな心持ちでもらった」ことが堆積すると子どもの方から「自分でするから手伝わないで」と「自立」につながると解釈されています。

Xが「ぬがせてほしい、はかせてほしい」といわないのは、先生たちが「それが良くない事」と考えていることをわかっているからかもしれません。しかし「してほしい」と真に願っていることを口外できる事は健全に育つための過ごし方だと思います。となるとXが言えない雰囲気を作ったのは誰？ A先生は救世主？(笑) 近頃の小中学生が悩みを口にできないのは、社会から「正論」で諭され、まともに扱われないことに起因していると思われまます。

この事例検討会終盤、全員で確認したのは、多様な先生同士の関係性についてです。

「子どもになめられる先生は、良くない」という職員文化を作らない。むしろ逃げ道も大事。「子どもをきちっとまとめられる先生を良い先生と評さない」という価値観を確認しました。保育園は職員同士のある意味、多様性の風土が大事かもしれません。子どもは大人の何倍ものパワーで自分の力で育っていくものです。先生は、乳幼児であっても伴走者です。

Xは、最近、どの先生に対しても「ちてちて(してほしい)」と訴えるとのことでした。
(了)